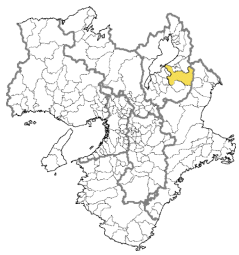
東近江市（滋賀県）：ちょこっとバス／ちょこっと号

市町村合併に伴うコミュニティバス路線再編、運行燃料へ BDF も活用

人口	116,797 人	モード	乗継改善・複数モード
面積	383.36 ㎢	法令	ちょこっとバス：道路運送法（旧）第 21 条 ちょこっと号：道路運送法第 4 条
人口密度	304.67 人/㎢	運営主体	東近江市



ちょこっとバス

ちょこっと号

■ 取組の背景

地域と交通の状況　【市町村合併による交通再編】

- 東近江市は、滋賀県の南東部に位置し、平成 17 年 2 月に八日市市、永源寺町、五個荘町、愛東町、湖東町、さらに平成 18 年 1 月には、能登川町、蒲生町の 1 市 6 町が合併して誕生した新市である。京阪神と中京都市圏との中間にあり、両圏からともに 100km内に位置している。
- 合併建設計画の中で、まちづくりの基本的な方向の主要施策として、「公共交通ネットワークの充実」が掲げられており、その中で、「コミュニティバス運行の検討を進め、路線バス、鉄道及び商店街との連携により利用促進をはかり、快適な交通ネットワークを構築する」と位置づけられていた。また、旧八日市市では平成 16 年度より既にコミュニティバス「ちょこっとバス」の運行が開始されていたが、永源寺、五個荘、愛東、湖東の旧町では廃止代替路線バスが運行されていた。新東近江市においては、生活交通路線の継続的な維持・確保に向けた対応やより一層の利便性・快適性の向上を目指した、バス路線の再編、バス交通の充実が喫緊の課題となっていた。

活用メニュー（制度・協議会等）　【都道府県の補助（総合）】【公共交通移動円滑化設備整備費補助】

- ちょこっとバスの運行には、県の「コミュニティバス運行対策補助金」が充当されている（平成 19 年度は 4,533 万円）。平成 19 年度より始まった能登川地区のちょこっとバス実証運行には、平成 19 年度は国の公共交通移動円滑化設備整備費補助を適用している。

■ 実現したサービス

サービス内容　【定時運行型交通】【デマンド型交通】【車両のバリアフリー化】

- コミュニティバス「ちょこっとバス」：運賃や不採算路線の見直しを行った結果、平成 19 年 4 月より、市内を走るコミュニティバスとしては旧八日市市で運行していた「ちょこっとバス」に統一して、運行エリアを拡大することとした。運賃は大人（中学生以上）200 円、子供(小学生以下)100 円、障害者とその介護者 100 円、乳幼児（3 歳未満）無料とした。回数券は、一般回数券が 2,500 円（16 乗車）、学生回数券は 2,000 円（17 乗車）、小児回数券が 1,000 円（17 乗車）となっている。1 日乗車券は 500 円であり、路線の乗継として「乗り継ぎ整理券」も発行している。1 回のみ乗り換えの際には追加料金が不要となる。運行間隔は 1～2 時間に 1 本程度である。
- 乗合タクシー「ちょこっと号」：不採算路線と運行ルートが見直された後も、地域住民の移動手段を確保するため、小型車両（タクシー）を使って予約によりデマンド運行する「ちょこっと号」を導入した。路線と時刻表を設定して運行されるが、乗車する場合は、各便の始発時刻の 30 分以上前に、運行を委託している近江タクシー湖東に利用者が電話予約をする。運賃はちょこっとバスと同一である。運行は 1 日に 4～5 往復である。
- 平成 19 年度の路線計画の見直しに伴い、乗降しやすい低床式車両が新しく導入され、より高齢者や子供に利用しやすい車両となった。また、路線によってバスの色分けがなされ、路線ごとの区別がしやすくなった。

技術　【低環境負荷車両】

- 愛東地区において、平成 17 年 8 月から BDF（Bio Diesel Fuel；バイオディーゼルフューエル）と軽油を混合した燃料でバス 2 台が運行されている。平成 19 年 4 月から八日市地区のちょこっとバスでも使用されるなど徐々に地区を拡大し、平成 20 年 4 月現在、ちょこっと号 12 台のうち 10 台において、7～8%の BDF を混合した軽油燃料による運行が行われている。廃油は定期的に、地区集会所等で廃食油の回収が行われている。BDF の原料は家庭と学校給食からの廃油が半々で、今後、家庭からの回収量を増やしていくことと、回収システムの導入地域拡大が課題となっている。

■ 効果と負担

効果 【利用者数の増加】【環境負荷の軽減】

- ちょこっとバスは 11 路線計で、月に 1 万 2 千人～1 万 7 千人程度の利用者数となっている。収支率は 16.4%である。ちょこっと号は 5 路線計で、月に 100 人～300 人程度の利用者数となっている。収支率は 12.3%である。市内全域のコミュニティバスを運賃 200 円としたが、収入源とはならず、乗車人員は増加傾向にある(4 月約 1 万 3 千人→3 月約 1 万 5 千人)。(いずれも平成 19 年度実績値)
- BDF 利用により、利用相当分の軽油代を節減することが可能になる(軽油引取税のみ発生)とともに、環境対策への効果もある。

負担 【都道府県負担】

- 市内のちょこっとバス11路線、ちょこっと号5路線は民間運行事業者に運行委託されているが、運行経費は約 1 億 6,000 万円となっている。運賃収入は約 2,500 万円であり、欠損分の約 1 億 3,500 万円に対して、県からは「コミュニティバス運行対策補助金」が約 4,500 万円支給されている。残りの約 9,000 万円が市の負担となっている。(いずれも平成 19 年度実績値)

■ プロセスと調整

利用者アンケート実施 【プロセス:現状把握】

- 利用者の利用意向を把握するため東近江市内で運行しているバスを利用している人全てを対象に、バス車内でのアンケート票を手渡しで配布し、郵送回収による利用者アンケートを実施した。約半数の人が通院・買い物利用を志向していること、約2/3の利用者がバス停までの距離は5分以内を希望すること、約半数の利用者が運賃は 300 円以内を希望していること、などの調査結果を基に、バス運行計画の見直しが行われた。

運行ルート・停留所設定の基本方針 【プロセス:目標設定】

- 運行ルートや停留所の設定に際しては、利用特性や需要動向、アンケート結果などから基本方針を策定した。その結果、運行ルートは、再編前の運行ルート維持と公共交通空白地域への対応とともに、需要に見合った利便性の向上を図る運行ルートを再編することとなった。また、バス停に関しては、徒歩で概ね 5 分程度(約 300m)で移動することのできる距離への設置を基本とした。

結節交通事業者とのタイアップ企画 【調整・連携先:交通事業者】

- 八日市駅で結節する近江鉄道とのタイアップ企画で、イベントや紅葉の季節などに、鉄道とちょこっとバスを組み合わせた企画券が販売されている。

無料開放デーの設置等 PR 策の実施 【調整・連携先:住民】

- 平成 19 年 10 月より、毎月第 3 日曜日を「家族ふれあいサンデー」と定め、保護者と高校生以下の子どもを含む市民の家族を対象に、市内施設とともにちょこっとバスも無料で利用できる「ふれあいカード」を配布している。また、市の広報紙を通じて、バスお試し無料乗車券も不定期に配布されている。ちょこっとバスに親しんでもらうため、バスのペーパークラフト配布やチョロ Q 販売、情報発信ブログなどの PR も行われている。バレンタインデーには、ちょこっとバスと語呂を合わせたチョコの配布とともに、利用者アンケートが実施された。

■ 創意工夫・知見・教訓

自治体・事業者ともに好都合なビジネスモデルの構築 【創意工夫:運営の工夫】

- デマンド型乗合タクシーの運行は、運賃収入は事業者の収入となり、赤字分を市が補填するシステムとなっている。当該地区にコミュニティバスを運行していた時と比べて、自治体は運行費用の節減となり、事業者は収入分が純増となるので、双方にとって受け入れやすいビジネスモデルが構築された。

市町村合併後の調整 【教訓:住民・利用者理解の必要性】

- 路線網再編と運賃体系の構築が行われた東近江市内の路線に対して、隣接市町村にも運行ルートが及ぶ日八線、角能線、桜川線などでは、市内とは異なる運賃体系となっている。今後は、これらの路線も含めた運賃体系の構築が求められる。

■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：東近江市生活環境部交通政策課　電話 0748-24-5658
あいとうエコプラザ菜の花館　電話 0749-46-8100
(資源循環型の地域づくりを進める拠点施設。BDF に用いる廃油の回収等も実施。)

参考 URL：「ちょこっとバス」ホームページ http://www.city.higashiomi.shiga.jp/subpage.php?p=10488
「ちょこっと号」ホームページ http://www.city.higashiomi.shiga.jp/subpage.php?p=9567

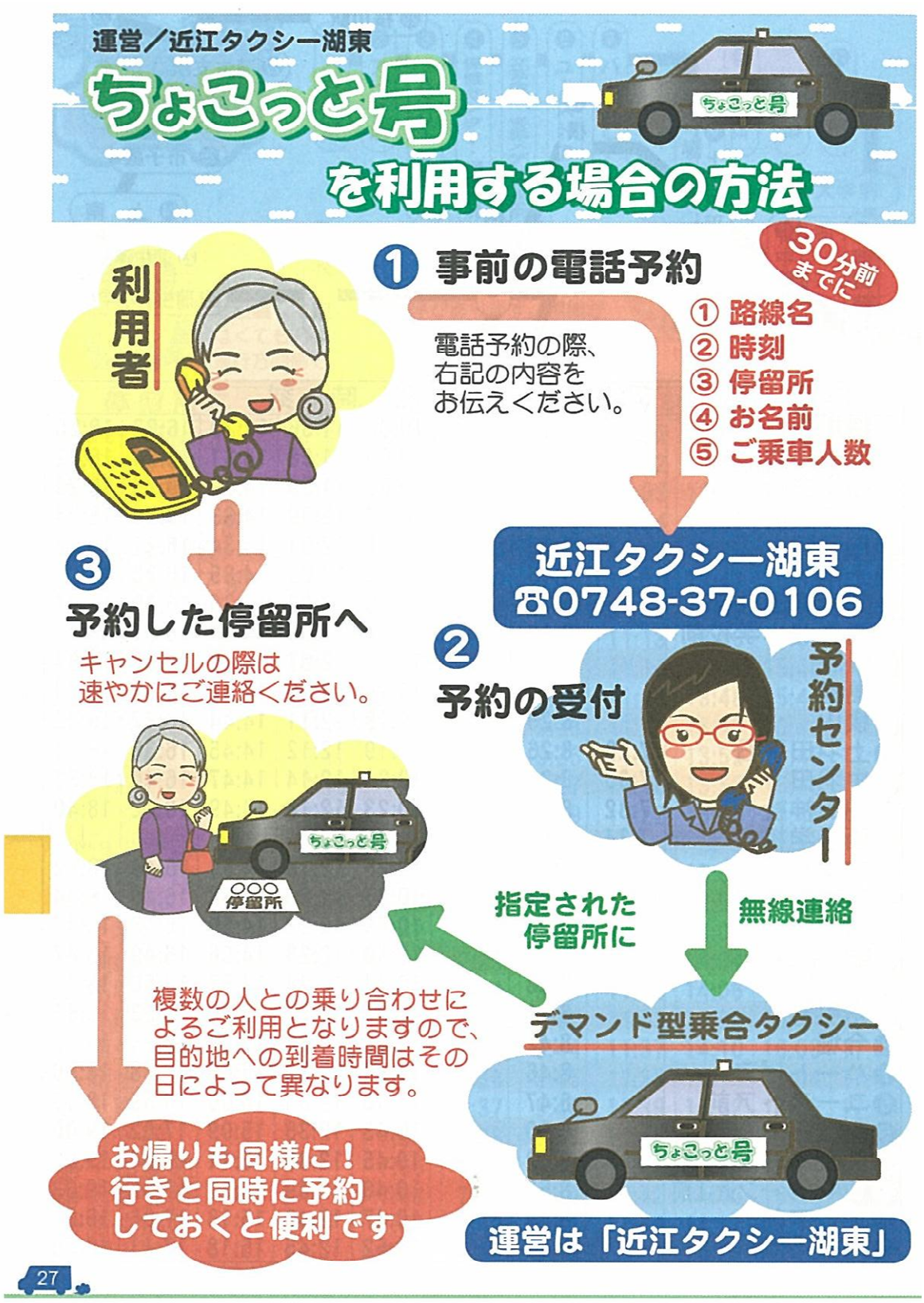
■ 資料編

図．色分けされたバス

図．チョロＱ

出典：東近江市資料

■ 資料編



図．ちょこっと号利用方法

出典：ちょこっとバスちょこっと号時刻表